

別記様式(第4条関係)

会議録

会議の名称	平成30年度第1回加東市文化財保護審議会
開催日時	平成30年8月1日(水) 午前10時から12時まで
開催場所	加東市滝野公民館2階講座室(加東市下滝野1369番地)
出席及び欠席委員の氏名 (出席委員5人) 瀧原 務、神崎 壽福、湖内 克利、中西 正和、米田 豊 (欠席委員1人) 小山 真永	
説明のため出席した者の職氏名 無し	
出席した事務局職員の氏名及びその職名 加東市教育委員会 教育長 藤本 謙造 教育部長 西角 啓吾 教育振興部生涯学習課 課長 芹生 和也、係長 吉田 浩康、主査 藤原 光平	
議題、会議結果、会議の経過及び資料名 1 会議内容 (1) 審議事項 ・加東市指定文化財の指定について 厚利地区所蔵「木造獅子・狛犬」5軀 (2) 報告事項 ・平成30年度加東市文化財事業について ・平成30年度「加東市文化財展」について 2 会議の経過 別紙のとおり	

平成30年10月10日

会 長 瀧 原 務
署 名 人 湖 内 克
署 名 人 米 田 豊

(別紙)

平成30年度第1回加東市文化財保護審議会 会議の経過

発言者	会議の経過／発言内容
事務局	1 開会 2 会長挨拶 3 会議内容 (1) 審議事項について説明、主な内容は次のとおり。 ・加東市指定文化財の指定について 厚利地区所蔵「木造獅子・狛犬」5 軀について
会長 事務局	この地域で狛犬は珍しいと思うが、他の類例はあるのか。 今回把握している1箇所あたりの狛犬の数としては、ここが一番多い。 それ以外に下久米地区の住吉神社におそらく中世期のものと思われる狛犬が1体だけ残されている。 それからもう一例として、上鴨川地区の住吉神社にも古い記録では対で2体存在すると記録に残っている。ただ今のところ、1体だけ実物を確認している。
会長 事務局	それは中世のものか。 中世のものである。今後これらのものも市指定文化財の候補に挙がる可能性があるので、来年度以降において所有者との交渉を検討している。
委員	東厚利之庄（ひがしあつとしのしょう）というのが日吉神社の神領、要するに荘園であったことを示す、きちんと書かれた資料はあるのか。
事務局	基本的には、この記事のみである。
委員	この要するに「耀天記（ようてんき）」の記事のみか。
事務局	はい。しかし、領地が荘園であったのかどうかについては、実際のところ不明である。
委員	参考資料の左側にもう一つ記事として、「耀天記」の中に「續群書類從神祇部（ぞくぐんしょるいじゅうじんぎぶ）」というものがあるのを確認していただきたい。 日吉神社（ひえじんじゃ）と言え、今堀日吉神社文書（いまぼりひえじんじゃもんじょ）というのものがあるが、今堀日吉神社とここに出て来る日吉神社は、同じ近江の国であるのか。今堀日吉神社は、近江の国である。
事務局	今堀日吉神社文書の中にこの記事が無いのか、と思った。まあ、一つ一つの神社の文書ばかりを集めたとしても、このことが出てくるのかどうかは分からないが。
事務局	今堀日吉神社で間違いないか、今ここで言っているのは。
委員	はい。
委員	兵庫県には、日吉神社が多いと思う。
委員	そんな多いのか。
事務局	私がこの近くで確認したのは、加西市に日吉神社があった。
事務局	加西市にあります。
委員	住吉神社が、一番多いのか。
事務局	加東市内でも、山王、日吉、と山王社としては厚利山王神社と、あと分社された厚利山王神社に隣接する小沢という地区にも、山王神社がある。
委員	そうすると、結構持っていたのか、領地を。
事務局	その他の地域の状況は、把握出来ていない。

会長	今堀日吉神社文書については、確認をする。裏付けのほうは、きちんと取りたいと思う。 最終的に答申をまとめる際、どこまでそういう歴史的意義の部分にこういった美術資料から決め込むかというのは、難しいところではあると思うので、出来るだけ文献資料とつき合わせた上で事務局の方で提示するので、判断を仰ぎたいと思う。 一般的に荘園領として、殿下渡領だったら春日神社とか、日吉神社領であれば山王社が、たいがい勧請されるものなのか。
委員 事務局	たいがい多い。 市内の状況からいくと、当然大きいのは、住吉神社、滝野の春日神社とこの山王神社というのが、推定ではあるが比較的残されている文献資料からは合致してくる部分が多いのだろうという状況である。言い切ることは出来ないが、それに沿ってくるのではないかな。
委員	全国の山王神社は、いわゆる比叡山の地主神である。一応資料的には「耀天記」にしっかり書いてあるので、裏づけはあると考えていいのではないかな。
会長 事務局	本当にそう考えてもいいのかどうかについては検討すべきである。 山王神社の中のこれまで言われていたのが、棟札（むなふだ）が元禄期の、本殿の再建札だということが残っていたのが最も古い記録だというのが本殿修理の調査に入るまでは分かっており、それ以外に「耀天記」といった資料があることも分かっている中で、ただ実際の神社のものと合わないため、中世の頃に本当にここにお宮があったのかどうかについては、本殿修理の調査に入るまで正確に分からなかった。
会長 事務局	しかし、本殿修理の調査に入った際に発見したこの獅子・狛犬の存在によって、お宮の位置がこの場所からそう大きく動かないだろうと想定出来て、やはりこの場所が元々荘園の鎮守のあった場所で間違いないと考える上での良い材料であると考えている。 やはり文化財として認定する一番の根拠というのは、その物自体、非常に珍しいものだということである、その起因する部分は推定でしかないが。今回の獅子・狛犬は非常に珍しいものなのか。 次第には書いていないが、平成25年度に今回の獅子・狛犬が発見され、平成26年度に早稲田大学との連携の中で保存処理と次第5ページの写真のとおり台座の作成を早稲田大学学芸員コースの授業の課程の中で作って頂いた経緯がある。その際に、この獅子・狛犬の制作年代は中世でほぼ間違いないと専門家の方の所見を頂いている。今のところは、鎌倉時代から室町時代ということ記載をしている。
会長	保存処理も現状しっかりされているので、指定後すぐにこの獅子・狛犬の保存処理のために市の補助金を交付せずに済むことも非常にありがたいと思い、市の指定文化財の候補として、今回挙げることにした。 あと、珍しいものかどうかということで他市町の状況を報告する。多可町が彫刻の悉皆調査を数年前から行っており、報告が出ている。その中でかなりの数の中世期の狛犬で木造のものが出たとの報告を聞いている。正確な数字ではないが、おそらく10対前後はあったと記憶している。 多可町以外の市町については、今のところ悉皆的な調査を行っていないため、加東市とそれほど変わらない状況だと聞いている。加西市も獅子・狛犬の報告例は無かったかと記憶している。小野市についても聞いてはいない。西脇市についても展示室のほうに1体か2体、中世か、近世かの木造の狛犬が展示されてはいるが、あまり古いものはまだ聞いたことがない。 狛犬というものは、中世以前は木造が多いのか。

事務局	中世以前は木造のことが多いと一般的には聞かれるところである。あとは場所というか、扱われ方が多少違っていただろうというふうに。一つの例として、大極殿の絵図を見ると壇上の上のほうや中腹のほうに獅子・狛犬が対で左右に置かれているのがよく描かれており、現状の前の方よりは少し奥の、中のほうで中の方をお守りされているような状況だったのだろうと。それが石造になったことによって前に出てきたのか、それが理由と事象のどちらが先なのかというのは分からない。近世以降のものも木造のものが全く無いということではないが、銘文などを見ると近世以降は石造のものが非常によく出てくる。多少入れ替わったりしながら移り変わっていくのだろうと考えている。
事務局	今回、市の文化財として指定しようとする獅子・狛犬の現物を、会議終了後に見ていただく。もしも異議が無ければ、今回の諮問に対する答申の中で、この獅子・狛犬を市の指定文化財として指定する方向で進めていきたい。
事務局	(2) 報告事項 ・平成30年度加東市文化財事業及び平成30年度「加東市文化財展」について、資料に基づき事務局から説明
会長	後継者育成事業補助金は、それぞれの団体に対し、いくらずつ交付しているのか。
事務局	秋津百石踊保存会と朝光寺鬼追踊保存会にそれぞれ10万円ずつ、黒谷柱祭として黒谷区長に5万円、上鴨川住吉神社神事舞保存会に25万円交付している。
会長	補助金を交付した団体に対して報告は求めているのか。
事務局	実績報告の中に決算書を添付して報告してもらっている。
委員	先ほど「見る・触れる」文化財教室で話に出ていたやしろ歴史民俗の会の会員のなかに小中学校や高等学校の先生方も入っているのか。
事務局	ほとんどの方が定年退職された方である。
委員	「見る・触れる」文化財教室で勉強したことが、小学校や中学校の授業の中で上手に取り入れられればいいと思うが。
事務局	事務局としましても、教員の方やもう少し若年の方にも来て頂きたいと考えている。
委員	加東市に存在する文化財はすごいと思うので、もっと子どもたちにも知ってもらいたいと今日改めて思った。 子どもは元々興味が無いのではなくて、情報が無いから、知らないから興味がわかないって部分もあると思う。
事務局	今回、首都圏での加東市文化財展に関する展示した資料について、学校にも配布・掲示をしたいと思う。展示資料の配布・掲示により、少しでも文化財に興味の無かった子どもたちに興味を持たせる効果が出ればいいと思う。